

# 福祉サービス第三者評価 評価結果

【保育所】

## ベネッセ日吉保育園

横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾日吉キャンパス協生館 1階

運営主体：株式会社 ベネッセスタイルケア

● 実施概要	1 ページ
● 総合評価（評価結果についての講評）	2～4 ページ
● 評価領域ごとの特記事項	5～7 ページ
● 分類・項目別評価結果	8～20 ページ
● 利用者家族アンケート分析・集計結果	21～28 ページ
● 利用者本人調査分析	29～30 ページ
● 事業者コメント	31 ページ

公表日：2017年3月6日

実施機関：特定非営利活動法人市民セクターよこはま

## 実施概要

事業所名	ベネッセ日吉保育園（保育所）		
報告書提出日	2017年1月31日	評価に要した期間	8ヶ月間
評価機関	特定非営利活動法人 市民セクターよこはま		

### ■評価方法

<b>1、自己評価</b> 実施期間 2016年5月31日～2016年11月7日	① 職員全体ミーティングで趣旨を説明し自己評価票を配付、全3回の園内研修に分けて指示した範囲を統一して考えてくることとし、園内研修で合議しながら各々記入した。非常勤職員へは非常勤ミーティングで趣旨を説明し、判断がつくところを記入した。 ② 園内研修時に各人が考えたことを持ち寄り、各項目を読み上げながら常勤全員で意見を出し合い、最終判断を確認し合った。 ③ 一人一人が記入した自己評価票を集め、園長・主任で協議しながらまとめた。
<b>2、利用者家族アンケート調査</b> 実施期間 2016年10月17日～2016年10月28日	① 全園児の保護者（65世帯）に対して、保育園側からアンケート用紙を手渡しで配付した。 ② 各保護者より、返信用封筒で、評価機関にあてて無記名で返送してもらった。
<b>3、訪問実地調査</b> 実施日:第1日 2016年12月7日 第2日 2016年12月9日	[第1日] ① 午前：各クラスで保育観察。 ② 昼食：2歳児、幼児クラスで園児と一緒に食べながら保育観察。 ③ 午後：書類調査。園長・主任に面接調査。  [第2日] ① 午前：朝は登園の様子を観察。その後、各クラスで保育観察。 ② 昼食：2歳児、幼児クラスで園児と一緒に食べながら保育観察。 ③ 午後：各クラス担任保育士3名、看護師1名、栄養士1名、非常勤職員1名に個別に面接調査。 その後、園長・主任・事業部長に面接調査。 最後に意見交換を行い、終了。
<b>4、利用者本人調査</b> 実施日:第1日 2016年12月7日 第2日 2016年12月9日	① 観察調査は、調査員が各クラスに分かれて実施し、戸外・園外での活動も観察した。 ② 幼児を中心に、観察調査や昼食で同席した際に、会話の中で適宜聞き取りを実施した。

## 総合評価（評価結果についての講評）

### 【施設の概要】

ベネッセ日吉保育園は、東急東横線および横浜市営地下鉄グリーンライン「日吉」駅から歩いてすぐの慶応義塾大学日吉キャンパス内の協生館の1階にあります。同建物内には、3つの大学院のほかコミュニケーションプラザ、スポーツセンター、店舗などが入っています。隣には同じ運営法人の一時保育室があります。

ベネッセ日吉保育園は、2009年（平成21年）4月に開園しました。運営法人は株式会社ベネッセスタイルケアで、首都圏を中心として保育園事業を数多く展開しています。

園はビルの中にあります。窓の外にはキャンパスの緑が広がっていて、明るく広々とした印象です。園庭は広く、0・1歳児用と2～5歳児用に分かれていて、安全に遊べるように配慮しています。隅には、畑があり子どもたちが野菜を育てています。

定員は、70名（0歳児～5歳児）、開園時間は平日（月曜日～金曜日）は7時～20時、土曜日は7時30分～18時30分です。

保育理念として『『よりよく生きる力=Benesse』の基礎を育てる』、保育目標として「自分で考え、すすんで行動する子ども」「友だちと楽しく遊ぶ子ども」「感性豊かな子ども」、保育方針として「子どもの『個性と人格を尊重』し、主体性を育てます」「自然な生活の営みの中で子どもが『安定感・安心感・落ち着きを持てる室内環境』をつくります」「深い信頼関係に根ざした『豊かな人とのかかわり』を重視します」「身の回りの『社会・自然を通しての学び』を大切にします』を掲げています。

### ◆ 高く評価できる点

#### 1、保育士は子ども一人一人を大切に保育をしていて、子どもたちは自分を素直に表現し、園生活を楽しんでいきます

子どもが大切にされたと感じられる経験を重ね、自己肯定感を感じられるよう、保育士は、子ども一人一人の気持ちを大切に保育にあたっています。保育室内には棚やパーテーションを用いて数か所のコーナーを設け、子どもが落ち着いて遊べるように環境設定しています。子どもたちは、友達とごっこ遊びをしたり、一人でゆっくりと絵本を読んだり、一人であるいは数人で積み木を用いて大きな作品作りに挑戦したりと、それぞれが自分のしたい遊びを選び、集中して遊び込んでいます。

乳児は担当制を取り、食事やトイレなどの生活面での保育士との一対一の関わりの中で、ゆったりと安心し、落ち着いて毎日を過ごしています。保育士にたくさんスキンシップを取ってもらい、たくさん話しかけてもらっていて、子どもたちは言葉や表情で自分の思いを素直に表現し、保育士に甘えています。

3歳～5歳児は異年齢の合同クラスとなっていて、子ども同士の関わりの中で、お互いを思いやる気持ちが育っています。観察時にも、年上の子どもが年下の子どもを手助けしたり、年下の子どもが年上の子どもの話を真剣に聞く姿が、様々な場面でみられました。また、朝夕にはサークルタイムと称して皆で輪になって集まり、子どもが自分の発見を皆に発表したり、クラスの活動やもめごとの原因などの課題について話し合う時間があり、子どもたちは自分の思いを言葉にする大切さや、相手の発言を聞くこと、色々な意見があることなど学んでいます。

#### 2、様々な取り組みを通し、職員は保育の方向性を一つにしています

園は、職員が同じ方向性を持って保育にあたれるよう理念や方針の研修に力を入れています。玄関に保育理念、保育目標、保育方針を掲示するとともに、全職員に「ベネッセの保育の考え方」を配付し、年度始めの非常勤職員を含む全職員が参加する園内研修で読み合わせをし、園長が具体的な事例をあげて分かりやすく説明しています。また、折に触れて、園内研修や職員会議で理念、方針に立ち戻る機会

を作っています。昨年度は、園内研修のテーマとして理念、方針を取り上げ、1年間かけて「ベネッセの保育の考え方」を用いて、保育の実際の場面がどのような根拠に基づいているかを確認しました。クラスミーティングには担任だけでなく、園長、主任も参加し、具体的な指導計画が理念や方針に沿っているかを確認し、必要に応じて質問を投げかけ職員の理解を深めています。

年度末には職員一人一人の自己評価をもとに、クラスで年度のクラス運営や子どもの気持ち、保護者対応等の項目について、自己評価をし、理念に沿った保育が実践できるように振り返りを行っています。このような取り組みを通して、職員はお互いの気持ちを言葉で伝え合い、子どもへの思いの共有を図っています。

職員はお互いの方向性を常に確認し、コミュニケーションを大切に、保育にあたっています。

### 3、保護者へ積極的に情報発信することで、保護者へ園の方針が浸透しています

園では、保護者に園の方針を理解してもらうために積極的に情報発信をしています。入園説明会や年度初めの懇談会では、園長が理念や方針について説明するとともに、保育課程を配付し、保育課程に基づく指導計画を紹介し、保護者が子どもの発達や保育内容について見通しが持てるようにしています。

保護者懇談会は春と冬の年2回行い、春には年度のねらいを伝え、冬には、子どもたちの成長の様子と次年度の連絡を行っています。各回ともビデオを上映し子どもたちの園での様子を保護者に見てもらっています。その日の各クラスの保育の様子は、事務室前の掲示板に写真とコメント入りで毎日掲示していますが、その横に月案を掲示し、月のねらいや配慮事項に沿って保育が実践されていることを、保護者が理解できるようにしています。

園は、乳児だけでなく、幼児についても毎月、個別指導計画を作成しています。個別指導計画は、乳児は毎月のクラス便りに「今月の様子」と「翌月のねらい」を記載する欄があり、個別に記載して保護者に手渡し、保護者と共有しています。幼児は、期ごとに「期の姿」と「次期の課題」を記載して「成長の記録」に貼付し保護者に報告し、共有しています。

今回の保護者アンケートにおいても、園の保育目標・保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の割合は合わせて97.7%で、その保育目標・保育方針に全員が「賛同できる」「まあ賛同できる」と答えています。また、総合的な満足度も97.8%と高く、園の方針が保護者に浸透し、支持されていることを確認することが出来ました。

#### ◆ 独自に取り組んでいる点

##### 1、大学キャンパス内にあるという立地が活かされている取り組みが多数あります

園は大学キャンパス内にあり、子どもたちは、大学敷地内の森・並木道・原っぱ等の自然豊かな遊び場で年間を通して、思いっきり身体を動かし、木登りや虫とり等の体験をしています。また、大学生主催の子ども向けのサマースクールへ園児が参加したり、大学生がボランティアとして訪れるなど交流の機会が多数あります。このような交流は子どもたちや保育士の刺激になるだけでなく、大学生にとっても小さい子どもの存在に触れる機会となっています。

また、大学との共催で育児講演会を開催したり、学生の子どもの行動と脳波や心拍数との関連に関する研究への協力（保護者が受諾した子どものみ）などの交流もあり、大学キャンパス内にあるという園の立地が活かされています。今後も、大学との関係性を大事にしながら、福祉に対する学生の理解関心を深めるなど、大学から得るプラス面を園の運営にさらに反映していくことが期待されます。

#### ◆ 改善や工夫が望まれる点

##### 1、地域の育児支援への取り組みを地域に発信するためのさらなる工夫が期待されます

園は育児支援として、月2回園庭開放を実施しています。園庭開放時には育児相談を受け付けています。それに加え、年3回、園長・看護師・栄養士による「育児相談会」を開催しています。また、年2回、有識者を講師として招き、子育て講演会を開催しています。

育児支援についての情報は、ホームページに掲載するとともに、園庭前の掲示板での掲示や、子育て支援イベント会場にチラシを置くなどしています。ただし、大学キャンパス内という立地もあり、掲示などが出来る場所が限られていて、園の存在が分かりにくいという課題があります。保護者支援で培った園の力を子育てに悩む地域の子育て家庭に還元し、保育所に求められる地域の育児支援という役割を果たすためにも、園の育児支援についての取り組みを大学だけでなく地域に広く知らせるための工夫をされることが期待されます。

## 評価領域ごとの特記事項

※このページは、かながわ福祉サービス第三者評価推進機構が定めた「評価領域」に則って記載しています。

### 1、人権の尊重

- ・子どもの人権尊重については、運営法人で定めた「ベネッセの保育の考え方」があり、これに基づいて子どもとの関わり方を学び合う機会を数多く設けています。保育中に子どもを急かすような場面は見受けられず、子どもが自ら行動できる成長の姿を見据えた保育を行っています。
- ・子どもが友だちや保育士の視線を気にせず過ごせる場所を、保育室内、廊下や玄関ホール等に意識的に作っています。棚で仕切ったスペース、絵本棚の前のベンチやソファ等を数か所に設け、子どもがほっとできる空間を作っています。
- ・運営法人では全職員対象に、法人のガイドラインに基づいた、個人情報保護に関する研修、及び確認テストを実施しています。
- ・虐待に関するマニュアルを整備するとともに、虐待に関する外部研修に参加した職員が、園内研修で報告し、職員間で共有しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、港北区こども家庭支援課や北部児童相談所と連携しています。

### 2、意向の尊重と自立生活への支援に向けたサービス提供

- ・保育室内は棚やパーテーションで仕切り、数か所のコーナーを設けています。机と椅子のあるお絵かきや製作のスペース、キッチンセットや洋服が並ぶごっこ遊びのコーナー、ソファやクッションを備えた絵本コーナー等、子どもが自分のしたい遊びに集中できるように工夫しています。
- ・0歳児クラスから、散歩の時間を多く設定しています。子どもたちは大学敷地内の森・大木の続く並木道・原っぱ等や、敷地外の散歩コースまで、自然豊かな遊び場で年間を通して、木登りや虫とり等の体験をしています。
- ・子どもの表現力を培うために、月2回のリトミックの時間や、お絵かき・習字・製作などの時間を設けています。園内には、子どもたちの楽しい作品が数多く展示されています。
- ・3歳～5歳児は異年齢の合同クラスです。クラス内では、年上の子どもが年下の子どもを手助けしたり、年下の子どもが年上の子どもの話を真剣に聞く姿が、様々な場面でみられます。午睡をしない時期になった5歳児が、0・1・2歳児クラスの午睡あけの手伝いをしたり、幼児クラスで行う「おかいものごっこ」に、乳児クラスの子どもたちがお客さんで参加したりするなど、異年齢の関わりは日常的に行われています。
- ・0歳児クラスの食事介助は1対1の対応です。（後期の離乳食の段階で2対1に移行）一人一人の子どものペースに合わせ、それぞれに十分な時間をとった対応をしています。
- ・0・1・2歳児については、排泄チェック表をつけ、一人一人の排泄リズムを把握しています。トイレトレーニングは、およその目安を排尿間隔が2時間になってからとし、子どもの発達状況に応じて保護者と連携して進めています。
- ・保護者懇談会は春と冬の年2回行い、春には年度のねらいを伝え、冬には、子どもたちの成長の様子と次年度の連絡を行っています。各回ともビデオを上映し子どもたちの園での様子を保護者に見てもらっています。
- ・保護者への情報提供として、3～5歳児クラスでは、年2回、「期の姿」と「次期の課題」として子ども一人一人の成長の様子を個別に配付しています。0・1・2歳児クラスは、毎月のクラスだよりに「前月の姿」「今月のねらい」欄を設け、一人一人について記載し保護者に届けるという丁寧な対応を行っています。

### 3、サービスマネジメントシステムの確立

- ・0・1・2歳児に対しては主担当制を取り、睡眠、食事、排泄などの生活面について主に担当する保育士を決めています。0・1・2歳児は毎日、幼児は必要に応じて、連絡ノート「成長の記録」を用いて、保護者と情報提供しています。

- ・子どもの発達や状況に合わせ、年間指導計画、月案、週案を作成しています。また、全園児に対して、毎月、個別指導計画を作成しています。
- ・保護者に対して毎年、「顧客満足度調査」を実施しています。アンケートの内容は、保育内容・職員の対応・情報提供や伝達・食事・安全衛生管理等、幅広い設問で構成されています。結果については園の全体会議で分析し改善点を検討しています。
- ・運営法人が定めたマニュアル集「安全衛生基準」があり、健康管理、衛生管理、掃除、安全管理などの各種マニュアルが整備されています。職員は、全体職員会議で毎年、マニュアルの読み合わせをしています。
- ・各クラスには「アクションカード」として、万一の場合に落ち着いて行動するための手順カードを備えています。乳幼児救命法、蘇生法など数種類の手順を絵入りでわかりやすく作成し、必要な時に誰でもがすぐに手にできる場所に備えています。
- ・事故が発生した場合には速やかに担任間でミーティングを持ち検証を行っています。その後、園長・看護師が加わって今後の改善策の検討会や全体会での報告等を適切に行っています。ケガについての報告書は看護師が分析し、前期・後期でデータ化して全体会議で報告し、再発防止策を話し合っています。

#### 4、地域との交流・連携

- ・地域への子育て支援サービスとして、月に2回、園庭開放を開催しています。
- ・幼保小教育連携事業に関する会議・研究会及び研究発表や、港北区内公私立保育所による育児講座「わくわく子育て広場」への実行委員としての会議参加等、地域支援への積極的な関わりを続けています。
- ・年に2回、有識者を講師として招き、子育て講演会を開催しています。
- ・育児相談は毎月の園庭開放時の他、年に3回、園長・看護師・栄養士による「育児相談会」を開催しています。しかし、毎週の実施には至っていません。
- ・学校との交流としては、近隣小学校の1年生と年2回の交流会をもっています。中学校・高校とは職業体験の受け入れを通じた交流があります。園は大学キャンパス内の立地であり、大学生のボランティア受け入れ、大学との共催で行う講演会開催、学生主催のサマースクールへの園児の参加、さらに、子どもの行動と脳波や心拍数との関連に関する研究への協力（保護者が受諾した子どものみ）等々、大学との交流は数多くあります。
- ・地域交流としては、駅前商店街の商店を訪れ、「おかいものごっこ」のイメージ作りに店内を見せてもらったり、スポーツジムからハロウィンの招待があったりと、親しい交流をしています。

#### 5、運営上の透明性の確保と継続性

- ・玄関に保育理念、保育方針、保育目標を掲げています。「ベネッセの保育の考え方」に明記し、非常勤職員を含む全職員に配付しています。入職時には、運営法人研修で理念・基本方針を周知するとともに、年度始めの全職員参加の園内研修で、園長が具体的な事例をあげて分かりやすく説明しています。
- ・年度末には、園独自の様式を用い、職員一人一人が自己評価をし、クラスミーティングで話し合い、クラスとしての自己評価をしています。年度末の職員会議では、クラスごとに発表をし、園としての1年間の振り返りをしています。
- ・就業規則の服務心得や行動基準、個人情報ハンドブックなどに職員が守るべき法・基準・倫理などが明記されています。全職員に配付している「ベネッセスタイルケア行動宣言」にも明記されています。
- ・保護者代表が参加する運営委員会で事業報告をしています。経営、運営状況などの情報を積極的に公開することはしていません。
- ・運営法人の外部顧問には様々な部門の専門家がいて、運営に関する意見や情報を得ています。大学キャンパスという立地の関係から大学関係者を運営委員として迎え、情報や意見を得ています。

#### 6、職員の資質向上の促進


- ・運営法人の人材育成計画に基づき非常勤職員を含む全職員の個別の職員育成研修計画を作成しています。また、人事制度の一つとして等級制を採用していて、等級要件を明示したチェックシートを用い

自分で確認できるようになっています。


- 毎月、年間のテーマを決めて園内研修を実施しています。職員は、横浜市や港北区、横浜市総合リハビリテーションセンター、白峰学園保育センターなどの外部研修に積極的に参加しています。また、運営法人の研修にも該当する職員が参加しています。外部研修に参加した職員は研修報告書を作成するとともに、園内研修で報告しています。
- 年間指導計画、月案、日誌などには自己評価の欄があり、定型化されています。保育士は、結果ではなく、子どもの育ちや意欲、プロセスを大切に日頃から保育にあたっていて、自己評価もその視点に沿って行われています。自己評価の結果は次期の計画に反映しています。
- 運営法人による職員満足度調査（ES 調査）を行っています。職員会議で、職員の改善に向けた意見を聞いています。園長、主任は日々の職員との会話の中からも意見、要望を把握しています。また、年3回の園長面談でも、職員の満足度や要望を把握しています。





## 分類別評価結果

- ※ 横浜市評価基準を使用しています。評価基準の詳細については、横浜市健康福祉局「福祉サービス第三者評価」のホームページ <http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/hyouka/index.html> を参照して下さい。
- ※  ←「ひょう太」の数の意味は以下の通りです。  
3つ：高い水準にある 2つ：一定の水準にある 1つ：改善すべき点がある
- ※ 評価分類の結果は、各分類を構成する1～6つの項目の評価結果で決まります。「ひょう太」が1つしかつかない項目が1つでもあると、その項目の属する評価分類の結果は「ひょう太」1つとなります。

### 評価領域Ⅰ 利用者（子ども）本人の尊重

評価分類	評価の理由(コメント)
<p><b>I-1 保育方針の共通理解と保育課程等の作成</b></p>  <p>(1)保育の理念や基本方針が利用者本人を尊重したものになっており、全職員が理解し、実践しているか。</p> <p>(2)保育課程は、保育の基本方針に基づき、子どもの最善の利益を第一義にして作成されているか。</p> <p>(3)日常の保育を通して子どもの意見や意思を汲み取る努力をし、指導計画に反映させているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育理念は「『よりよく生きる＝Benesse』の基礎を育てる いきいきと健やかに毎日を過ごし、自信と意欲をもって未来を生きる子どもを育てます」、保育目標は「自分で考え、すすんで行動する子ども」「友だちと楽しく遊ぶ子ども」「感性豊かな子ども」、保育方針は「子どもの『個性と人格を尊重』し、主体性を育てます」「自然な生活の営みの中で子どもが『安定感・安心感・落ち着きを持てる室内環境』をつくります」「深い信頼関係に根ざした『豊かな人とのかかわり』を重視します」「身の回りの『社会・自然を通しての学び』を大切にします」で、利用者本人を尊重したものとなっています。年度初めの非常勤職員を含む全職員が参加する園内研修で、保育理念、基本方針について具体的な事例を基に確認し、周知しています。また、全職員に配付するマニュアル「ベネッセの保育の考え方」に保育理念、基本方針を明記し、いつでも確認できるようにしています。</li> <li>・保育課程は、子どもの発達段階に沿って、保育理念や方針、保護者の状況や地域の実態、周囲の環境を考慮して作成されています。開園時に作り上げた保育課程を定期的に改訂しています。改定時には異なる職種が混じって編成したプロジェクトチームが作成したたたき台を基に、全体会議で話し合い作成しました。毎年、年度始めの全体会議で、保育課程の読み合わせをし、必要な場合には見直しています。保護者に対しては、入園説明会や年度初めの懇談会で保育課程を配付し、保育課程に基づいて指導計画を作成していることを説明しています。</li> <li>・保育士は子どもに寄り添い、子どもの態度や表情、しぐさなどから子どもの意思を汲み取っています。保育士は子どもに優しく問いかけ、子どもの意見や要望を丁寧に拾い上げています。幼児は、朝夕にサークルタイム（朝の会、夕の会）を行い、子どもの意見を聞いています。週案はゆとりを持たせたものとなっていて、子どもの意見や要望を柔軟に取り入れることが出来ます。子どもの興味や関心から行事のテーマを決め、子どもと話し合っ進めていくなど、子どもの主体性を大切にして保育を進めています。製</li> </ul>

<p><b>I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施</b></p>  <p>(1)入園前や入園後すぐに子どもの発達状況や課題を把握しているか。  (2)新入園児の受け入れ時の配慮を十分しているか。  (3)子どもの発達や状況に応じて指導計画を作成しているか。</p>	<p>作などはゆとりを持って期間を設定し、やりたい子どもから取り組めるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>入園前説明会后に、保育士が独自の「面談シート」を用い、親子面談を実施しています。必要に応じて、園長、看護師、栄養士も同席しています。入園までの成長歴や家庭での状況は、家庭状況調査書、「入園までの生活状況」、「離乳食の状況」、健康記録、アレルギー調査票などに保護者に記載してもらい把握しています。把握した情報は、全体会議で報告し、職員間で共有しています。</li> <li>入園前説明会でならし保育（短縮保育）について、園長がプリントを用いて保護者に説明しています。入園前面談で保護者の就労状況を確認し、保護者と相談しながらならし保育を進めています。</li> <li>0・1・2歳児に対しては主担当制を取り、睡眠、食事、排泄などの生活面について主に担当する保育士を決めています。0・1・2歳児は毎日、幼児は必要に応じて、連絡ノート「成長の記録」を用いて、保護者と情報提供しています。</li> <li>入園当初は、1歳児は新入園児と在園児の二つのグループに分けて在園児がそれまでの生活を続けられるようにするなど、在園児への配慮をしています。在園児の保護者に対しては、年度末の懇談会で説明しています。</li> <li>子どもの発達や状況に合わせ、年間指導計画、月案、週案を作成しています。毎月のクラスミーティングで月の振り返りを行い、翌月の月案のたたき台を作成し、月案会議にて職員間で意見交換し、月案を作成しています。クラスミーティングには担任、園長、主任（0歳児は担任、栄養士、看護師、園長、主任）が参加しています。行事後の保護者アンケートや運営委員会で把握した保護者の意見や要望は、職員会議で検討し、次期の計画に反映しています。</li> </ul>
<p><b>I-3 快適な施設環境の確保</b></p>  <p>(1)子どもが快適に過ごせるような環境(清潔さ、採光、換気、照明等)への配慮がなされているか。  (2)沐浴設備、温水シャワーなど体を清潔にできる設備があるか。  (3)子どもの発達に応じた環境が確保されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>安全衛生基準マニュアルに沿い、チェックリストを用いて、清掃が行われていて、保育園の屋内・外とも清潔に保たれています。保育室に、温・湿度計を設置し、エアコン、加湿機能付空気清浄機、扇風機を用いて温・湿度の管理を行って、適切に保たれています。窓は大きく、陽光を十分に取り入れることが出来ます。日当たりが良い場合には、カーテンを用い調節しています。</li> <li>室内に緑や季節の花、季節の装飾などを置き、季節感が感じられるようにしています。</li> <li>保育士は穏やかな声で話しかけていて、保育士の声が騒音になることはありません。3・4・5歳児保育室はオープンで音が通りやすい構造となっていますが、リトミックや音楽、体操などは連携し、片方のクラスが活動している時には他のクラスは園庭や自由遊びを行うなど工夫しています。製作やクッキングなどは同時に行い、子どもが落ち着いて取り組めるように配慮しています。</li> <li>0歳児および1歳児トイレには沐浴設備、2歳児および幼児トイレ、園庭には温水シャワーの設備があります。沐浴および温水シャワーの設備は毎日清掃していて、管理が十分に行き届いていま</li> </ul>

	<p>す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内の異年齢間の交流の場としては、多目的室や廊下の椅子などがあります。3・4・5 歳児は異年齢クラスとなっていて日常的に交流しています。</li> </ul>
<p><b>I-4 一人一人の子どもに個別に対応する努力</b></p>  <p>(1)子ども一人一人の状況に応じて保育目標を設定し、それに応じた個別指導計画を作成しているか。</p> <p>(2)子ども一人一人の発達の過程に応じた対応をし、その記録があるか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児は毎月、個別指導計画を作成しています。幼児についても全員、毎月、課題（ねらい）・子どもの姿と個別配慮を印した個別指導計画を作成しています。クラスミーティングと月案会議で子どもの様子について話し合い、個別指導計画の作成、見直しをしています。子どもの様子に変化があった場合には、その都度クラスで話し合い柔軟に対応しています。</li> <li>・乳児は毎月のクラス便りに「今月の様子」と「翌月のねらい」を記載する欄があり、個別に記載して保護者に手渡し、保護者と共有しています。幼児は、期ごとに「期の姿」と「次期の課題」を記載して「成長の記録」に貼付し保護者に報告し、共有しています。トイレトレーニング、離乳食の進め方等については、保護者と意見交換し進めています。</li> <li>・保育所児童保育要録を作成し、小学校に送付し、必要に応じて口頭でも伝達しています。</li> <li>・入園後の子どもの記録は「保育の記録」に乳児は毎月、幼児は4期に分けて記載しています。家庭状況調査書、健康記録、健診記録、保育の記録、個人面談票などの子どもの記録は一人一人の「児童票」にファイルし、事務室の鍵のかかる書庫にファイルされていて、必要な時には確認することが出来ます。年度末には「保育の記録」にまとめと送り事項を記載し、進級時に伝達されています。口頭での引継ぎも行っています。</li> </ul>
<p><b>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</b></p>  <p>(1)特に配慮を要する子どもを受け入れ、保育する上で必要な情報が職員間で共有化されているか。</p> <p>(2)障害児保育のための環境整備、保育内容の配慮を行っているか。</p> <p>(3)虐待を疑われる子どもの早期発見と適切な対応を心がけているか。</p> <p>(4)アレルギー疾患のある子どもへの適切な対応ができているか。</p> <p>(5)外国籍や帰国子女など、文化の異なる子どもに対して適切な配慮がされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特に配慮を要する子どもを積極的に受け入れています。</li> <li>・個別のケースについては、クラスミーティングや職員会議で話し合い、記録しています。職員会議に参加しなかった職員に対しては会議録で周知しています。運営法人の外部顧問である発達心理の専門家による年3回の巡回訪問で指導や助言を受けています。結果は職員会議で報告し全職員で共有しています。情報は記録し、事務室の鍵のかかる書庫に置かれていて、必要な場合には確認することが出来ます。</li> <li>・園はバリアフリー構造となっています。</li> <li>・障がいの特性を考慮した個別指導計画を作成しています。職員は横浜市や港北区、北部地域療育センターなどの障がいに関する研修に積極的に参加しています。研修に参加した職員は研修報告書を作成するとともに、職員会議などで報告しています。</li> <li>・全クラスに加配の保育士を配置し、必要に応じて個別に対応できる体制を整えています。保育士は障がいのある子どもの様子を見守り、出来ることは自分でやるように働きかけ、できない所を目立たないように援助することで他の子どもと同じように過ごせるように支援しています。保育士が障がいのある子どもを特別扱いすることなく同じように接する様子を見て、他の子どもたちもク</li> </ul>

ラスの仲間として自然に受け入れています。また、障がいのある子どもの保護者と常にコミュニケーションを取り、家庭と同じ配慮ができるよう方向性を統一しています。

- ・マニュアル「安全衛生基準」の中に虐待の定義、チェックポイントと対応などが明記されています。虐待に関する外部研修に参加した職員が、園内研修で報告し、職員間で共有しています。虐待が明白になった場合や疑わしい場合、見守りが必要な場合には、港北区こども家庭支援課や北部児童相談所と連携しています。
- ・保護者に子どものかかりつけ医の記入した「アレルギー疾患生活管理指導表」を提出してもらし、それに基づき除去食を提供しています。
- ・マニュアル「安全衛生基準」の中に「食物アレルギーのある子どもへの給食対応」があります。運営法人や横浜市の食物アレルギーに関する研修に参加した職員は、園内研修で報告し全職員で共有しています。子どもに関する情報は、クラスミーティングや月案会議、職員会議で周知しています。年1回の救命救急法の全体研修では、看護師がアナフィラキシーの対応について説明しています。
- ・毎月、除去食内容を記した個別の献立表を用い、保護者と担任でチェックしています。除去食の受け渡し時に、給食室、保育士間でトリプルチェックし、チェック表にサインしています。提供時には、別トレイ、色の異なる食器を用いています。食事の際には保育士が傍に付いています。
- ・保護者との個別面談などで理解を深め、文化や生活習慣、考え方の違いを認めています。意思疎通が難しい場合には、同じ建物内にある大学院の職員や保護者の協力を頼むなどして対応しています。

## I-6 苦情解決体制




- (1)保護者がサービスについての要望や苦情を訴えやすい仕組みになっているか。
- (2)要望や苦情等を受けて、迅速に対応できる仕組みになっているか。

- ・苦情解決責任者は園長、苦情受付担当者は主任です。第三者委員を定め、入園のしおりに明記するとともに、事務室前に掲示し、保護者に周知しています。外部の苦情解決窓口として、横浜市福祉調整委員会のチラシを玄関に置き、保護者に紹介しています。
- ・玄関に意見箱を設置するとともに、年2回の懇談会、行事後および運営法人によるアンケートを実施し、保護者の要望や苦情を聞いています。朝夕の送迎時には、保育士は保護者とコミュニケーションを取り、意見、要望を聞いています。また、連絡ノート「成長の記録」からも把握しています。園長、主任は事務室のカウンターから声をかけ、保護者と会話し、意見や要望を把握しています。
- ・「意見・要望の解決のための仕組み」として文書化し、事務室前に掲示しています。要望や苦情は、職員会議で共有し、統一した対応が出来るようにしています。苦情や要望は記録し、データとして活かされています。
- ・保護者アンケートの結果は、回答も含めて園便りに掲載し、保護者にフィードバックしています。



## 評価領域Ⅱ サービスの実施内容

評価分類	評価の理由（コメント）
<p data-bbox="137 255 488 291">Ⅱ－１ 保育内容[遊び]</p>  <p data-bbox="137 439 560 555">(1)子どもが主体的に活動できる環境構成（おもちゃ・絵本、教材、落ち着いて遊べるスペースなど）ができているか。</p> <p data-bbox="137 573 560 645">(2)遊びが一斉活動に偏らないよう配慮しているか。</p> <p data-bbox="137 663 560 779">(3)動植物の飼育や栽培・園外活動など、自然に触れたり地域や社会に関わる体験が取り入れられているか。</p> <p data-bbox="137 797 560 958">(4)子どもが歌やリズム、絵や文字、からだを動かすなどの体験を通して、自分の気持ちを自由に表現できるよう配慮されているか。</p> <p data-bbox="137 976 560 1048">(5)遊びを通して子ども同士の関係や保育士との関係が育つよう配慮しているか。</p> <p data-bbox="137 1066 560 1137">(6)積極的な健康増進の工夫が遊びの中になされているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"><li>・保育室内のおもちゃは、子どもの視線の高さの棚に種類ごとの写真を貼り、わかりやすく収納しています。子どもが自分で取り出しやすく片付けもしやすい配慮をしています。</li><li>・保育室内は棚やパーテーションで仕切り、数か所のコーナーを設けています。机と椅子のあるお絵かきや製作のスペース、キッチンセットや洋服が並ぶごっこ遊びのコーナー、ソファやクッションを備えた絵本コーナー等、子どもが自分のしたい遊びに集中できるように工夫しています。職員は外部の手作りおもちゃや羊毛フェルトの研修に継続して参加し、さらに園内研修へと広げて園全体で質の良いおもちゃの提供に取り組んでいます。</li><li>・子どもたちは、数人でゲームをしたり、風呂敷を肩にかけて何かのつもりのごっこ遊び、保育士と一緒に折り紙、または一人で図鑑や絵本を読んだり、積み木遊びをしたりするなど、それぞれに自分の好きな遊びに集中して過ごしています。</li><li>・園庭で夏野菜・米・果物、花苗の植え付けなどを行っています。土作りから日々の観察、収穫し食卓に上るまでの体験をしています。飼育については、玄関ホール・各保育室・事務室などの園内各所に大小の水槽を置き、金魚・熱帯魚・カメ等を育てています。子どもたちは魚を眺めたり、カメに名前を付けたり、保育士と共に世話をするなどして、小さな生き物を大切に育てています。</li><li>・0歳児クラスから、散歩の時間を多く設定しています。子どもたちは大学敷地内の森・大木の続く並木道・原っぱ等や、敷地外の散歩コースまで、自然豊かな遊び場で年間を通して、木登りや虫とり等の体験をしています。</li><li>・子どもの表現力を培うために、月2回のリトミックの時間や、お絵かき・習字・製作などの時間を設けています。園内には、子どもたちの楽しい作品が数多く展示されています。</li><li>・3歳～5歳児は異年齢の合同クラスです。クラス内では、年上の子どもが年下の子どもを手助けしたり、年下の子どもが年上の子どもの話を真剣に聞く姿が、様々な場面でみられます。午睡をしない時期になった5歳児が、0・1・2歳児クラスの午睡あけの手伝いをしたり、幼児クラスで行う「おかいものごっこ」に、乳児クラスの子どもたちがお客さんで参加したりするなど、異年齢の関わりは日常的に行われています。</li><li>・屋外活動は園庭遊びと散歩を組み合わせ、行っています。園庭遊びは乳児と幼児で使用日を分け、乳児の安全確保と共に幼児クラスの子どもたちが運動遊びを思いきり出来るように配慮しています。跳び箱やマットなどの運動具も備え、子どもの発達に応じた運動の環境を整えています。</li></ul>

## Ⅱ－１ 保育内容[生活]



- (7)食事を豊かに楽しむ工夫をしているか。
- (8)食事の場、食材、食器等に配慮しているか。
- (9)子どもの喫食状況を把握して、献立の作成・調理の工夫に活かしているか。
- (10)子どもの食生活について、家庭と連携しているか。
- (11)午睡・休息は発達や日々の子どもの状況に応じて対応しているか。
- (12)排泄は個人差があることを十分に配慮して対応しているか。

- ・子どもが苦手な食べ物を強制することはなく、一口だけでも食べてみるように話しています。3～5 歳児クラスは自分で食べられる量を伝えて、盛り付けてもらっています。
- ・0 歳児クラスの食事介助は1 対1 の対応です。(後期の離乳食の段階で2 対1 に移行) 一人一人の子どものペースに合わせ、それぞれに十分な時間をとった対応をしています。
- ・給食時には、食卓にテーブルクロスを敷き、それぞれの食卓に小さな花を飾り、楽しい食事の雰囲気作りをしています。食材は産地が特定でき良質なものを、毎日その日に使用する分量だけを仕入れ、新鮮な食材・安全な食材にこだわった調達をしています。主食は離乳食を除いて、栄養価の高い胚芽米を使用しています。
- ・調理担当者が毎日各クラスをまわり、子どもたちの食事の様子を見ています。また、0 歳児クラスのクラスミーティングには調理担当者が参加し、子ども一人一人の発達状況を保育士と共有し、離乳食の進め方を話し合っています。
- ・毎月、「給食だより」を発行しています。紙面は、食に関する子どもの様子、給食作りで配慮していることの紹介、人気メニューの紹介等の内容です。また、玄関ホールに、給食とおやつのサンプルを毎日展示し、お迎えの保護者に見てもらっています。
- ・乳幼児突然死症候群の予防対策として、午睡中のブレスチェックを0 歳児クラスは5 分毎、1 歳児クラスは10 分毎、2 歳児クラスは15 分毎、3 歳児以上は45 分に1 回で行っています。また、姿勢についても必ず仰向け寝にすることを徹底しています。
- ・0・1・2 歳児については、排泄チェック表をつけ、一人一人の排泄リズムを把握しています。トイレトレーニングは、およその目安を排尿間隔が2 時間になってからとし、子どもの発達状況に応じて保護者と連携して進めています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理[健康管理]



- (1)子どもの健康管理は、適切に実施されているか。
- (2)健康診断・歯科健診の結果を保育に反映させているか。
- (3)感染症等への対応に関するマニュアルがあり、保護者にも徹底しているか。

- ・子どもの健康管理に関するマニュアルがあります。毎日の視診(乳児クラスは朝夕の2 回、幼児クラスは朝1 回)は、このマニュアルに基づき行い「健康観察リスト」を作成しています。
- ・年2 回の健康診断(0 歳児は毎月)、年1 回の歯科健診・ぎょう虫検査、毎月の身長体重測定を実施し、記録は個人別のファイルに整備しています。
- ・健診の結果は、健康に関する連絡用の「けんこうのきろく」に記して保護者に渡し、保護者からの確認サインをもらう手順で、保護者との連携をしています。
- ・保育中に発熱や嘔吐等の感染症が疑われる症状が発症した場合には、速やかに保護者に連絡し、医務室で看護師が付き添って保護者のお迎えを待つようにしています。
- ・園内で感染症が発症した場合には、玄関ホールと各クラスの掲示板で病名・クラス名・人数を保護者に知らせています。地域の感染症情報についても港北区福祉保健センターからの連絡事項を掲示しています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]



(4)衛生管理が適切に行われているか。

- ・運営法人で定めた衛生管理に関するマニュアルがあります。法人内各園の看護師・園長・主任に加え、総合病院の医師が同席して行う定例会（毎月の看護師会、隔月の安全衛生定例会）があり、その都度必要に応じた見直しを行っています。
- ・職員は入職時の新任研修で、環境衛生について学んでいます。また、園内では全体職員会議で毎年マニュアルの読み合わせを行う他、汚物処理・嘔吐時の介助などの実践面の研修も毎年実施しています。
- ・園内は掃除マニュアルに基づいた清掃が行われ清潔な状態です。また、年1回外部の専門業者による水回り・0歳児保育室・調理室の衛生検査を実施しています。結果によっては全体職員会議で清掃の見直しを行い、衛生管理の徹底を図っています。

## Ⅱ－２ 健康管理・衛生管理・安全管理 [安全管理]



(5)安全管理に関するマニュアルがあり、事故や災害に備えた安全対策が実施されているか。

(6)事故や怪我の発生時及び事後の対応体制が確立しているか。

(7)外部からの侵入に対する対応策が整備されているか。

- ・運営法人で定めた安全管理に関するマニュアルがあり、マニュアルは様々な事態を想定した非常時の手順や散歩や睡眠時の安全確保などで構成されています。また、各クラスには「アクションカード」として、万一の場合に落ち着いて行動するための手順カードを備えています。乳幼児救命法、蘇生法など数種類の手順を絵入りでわかりやすく作成し、必要な時に誰でもがすぐに手にできる場所に備えています。
- ・災害時の保護者への連絡は、「災害時連絡用メール配信システム」を取り入れています。毎月、地震や火災を想定した避難訓練や、年1回の、大災害に備えた保護者の引き取り訓練を行っています。当日は、災害時配信メールによる交信体験も実施しています。
- ・運営法人で毎年行う「乳幼児救命手当講習会」を全職員が受講しています。心肺蘇生法・AEDの使用法・ケガの応急処置等を、実習を交えて学んでいます。
- ・事故が発生した場合には速やかに担任間でミーティングを持ち検証を行っています。その後、園長・看護師が加わって今後の改善策の検討会や全体会での報告等を適切に行っています。ケガについての報告書は看護師が分析し、前期・後期でデータ化して全体会議で報告し、再発防止策を話し合っています。
- ・園の入所する複合施設内には警備員が常駐しており、非常時には園内から直接通報できるシステムです。施設内の共有部分には防犯カメラが数多く設置してあり、防災センターのモニター画面で警備しています。また、不審者対応の防犯対策訓練を年2回実施しています。

## Ⅱ－３ 人権の尊重



(1)保育中の子どもの呼び方や叱り方などで、子どもの人格尊重を意識しているか。

(2)必要に応じてプライバシーが守れる空間を確保できるような工夫がされているか。

- ・子どもの人権尊重については、運営法人で定めた「ベネッセの保育の考え方」があり、これに基づいて子どもとの関わり方を学び合う機会を数多く設けています。保育中に子どもを急かすような場面は見受けられず、子どもが自ら行動できる成長の姿を見据えた、保育を行っています。
- ・子どもが友だちや保育士の視線を気にせずに過ごせる場所を、保育室内、廊下や玄関ホール等に意識的に作っています。棚で仕切ったスペース、絵本棚の前のベンチやソファ等を数か所に設け、子

か。

(3)個人情報の取り扱いや守秘義務について、職員等に周知しているか。

(4)性差への先入観による役割分業意識を植え付けないよう配慮しているか。

どもがほっとできる空間を作っています。また、トイレスペースは、トイレ内が見えないようにカーテンをつけ、幼児クラスのトイレには扉でプライバシーを守っています。

- ・運営法人では全職員対象に、法人のガイドラインに基づいた、個人情報保護に関する研修、及び確認テストを実施しています。個人情報に関する記録類は、事務室内の書庫に施錠して管理し、児童票については事務室外への持ち出し禁止、他の記録簿類については、事務室外へ持ち出す時は持ち出し記録に記載する決まりを設けています。
- ・行事の役割・順番・グループ分けなどは性別にしています。3～5歳児クラスでは、男児・女児・異年齢での「きょうだいグループ」を作っています。遊びの場面では、子どもたちの意志でグループを作っています。

## Ⅱ-4 保護者との交流・連携



(1)保護者が保育の基本方針を理解できるよう努力しているか。

(2)個々の保護者との日常的な情報交換に加え、個別面談等を行っているか。

(3)保護者の相談に応じているか。

(4)保育内容(行事を含む)など子どもの園生活に関する情報を提供しているか。

(5)保護者の保育参加を進めるための工夫をしているか。

(6)保護者の自主的な活動への援助や意見交換を行っているか。

・保護者に対して毎年、「顧客満足度調査」を実施しています。アンケートの内容は、保育内容・職員の対応・情報提供や伝達・食事・安全衛生管理等、幅広い設問で構成されています。結果については園の全体会議で分析し改善点を検討しています。

・保護者懇談会は春と冬の年2回行い、春には年度のねらいを伝え、冬には、子どもたちの成長の様子と次年度の連絡を行っています。各回ともビデオを上映し子どもたちの園での様子を保護者に見てもらっています。

・保護者からの相談には、多目的室を用意し、他人の目を気にせず落ち着いて話ができるように配慮しています。職員が受けた保護者からの相談については、必ず園長又は主任に報告し、状況によっては園長・主任が同席して最善のアドバイスが出来るように考慮しています。

・保護者への情報提供として、3～5歳児クラスでは、年2回、「期の姿」と「次期の課題」として子ども一人一人の成長の様子を個別に配付しています。0・1・2歳児クラスは、毎月のクラスだよりに「前月の姿」「今月のねらい」欄を設け、一人一人について記載し保護者に届けるという丁寧な対応を行っています。



・保育中の写真については、外部の専門業者と契約し、ウェブ上でパスワードを用いて閲覧するシステムを取り入れています。写真を希望する保護者は購入することも出来ます。

・保育参観を年1回行っています。およそ2週間の日程の中で保護者の都合のつく日を選択してもらっています。この日程で都合のつかない保護者に対しても柔軟な対応を行い、出来るだけ多くの保護者に来てもらえるように配慮しています。


・園は保護者の活動への支援として、卒園前の保護者の打ち合わせに、多目的室を提供しています。



## 評価領域Ⅲ 地域支援機能


評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅲ－１ 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</b></p>  <p>(1)地域の子育て支援ニーズを把握するための取り組みを行っているか。 (2)地域の子育て支援ニーズに応じて施設の専門性を活かしたサービスを提供しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域への子育て支援サービスとして、月に2回、園庭開放を開催し、当日は子育て相談を受け付けています。</li> <li>・幼保小教育連携事業に関する会議・研究会及び研究発表や、港北区内公私立保育所による育児講座「わくわく子育て広場」への実行委員としての会議参加等、地域支援への積極的な関わりを続けています。</li> <li>・毎年度末に地域支援に関する年間計画を作成し、地域の子育て支援ニーズについて職員間で話し合っています。</li> <li>・年に2回、有識者を講師として招き、子育て講演会を開催しています。</li> </ul>
<p><b>Ⅲ－２ 保育所の専門性を活かした相談機能</b></p>  <p>(1)地域住民への情報提供や育児相談に応じているか。 (2)相談内容に応じて関係諸機関・団体との連携ができる体制になっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・育児相談は毎月の園庭開放時の他、年に3回、園長・看護師・栄養士による「育児相談会」を開催しています。しかし、毎週の実施には至っていません。</li> <li>・地域からの相談に備えて、医療機関・行政機関・小学校・療育センター等の連絡先は一覧にし、必要な職員がいつでも活用できるようになっています。こうした関係機関とは日常的な交流があり、必要に応じた連携をしています。</li> </ul>


## 評価領域Ⅳ 開かれた運営

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>Ⅳ－１ 保育所の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</b></p>  <p>(1)保育所に対する理解促進のための取り組みを行っているか。 (2)子どもと地域との交流により、子どもの生活の充実と地域の理解を深めているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域支援の一環として、港北区の子育て支援イベント「わくわく子育て広場」に、例年実行委員として参加しています。委員会には園長・主任が出席し、イベント開催日には職員も参加しています。港北区を細分化した子育て支援イベント「にこにこ広場」の北部エリア地区への参加をしています。</li> <li>・学校との交流としては、近隣小学校の1年生と年2回の交流会をもっています。中学校・高校とは職業体験の受け入れを通じた交流があります。園は大学キャンパス内の立地であり、大学生のボランティア受け入れ、大学との共催で行う講演会開催、学生主催のサマースクールへの園児の参加、さらに、子どもの行動と脳波や心拍数との関連に関する研究への協力（保護者が受諾した子どものみ）等々、大学との交流は数多くあります。</li> <li>・地域交流としては、駅前商店街の商店を訪れ、「おかいものごっこ」のイメージ作りに店内を見せてもらったり、スポーツジムからハウウィンの招待があったりと、親しい交流をしています。</li> <li>・近隣の小規模保育室2園と、園庭の共有・園行事への参加・健康診</li> </ul>

	<p>断の場所提供等の交流をしています。また、運営法人内の高齢者施設を定期的に子どもたちが訪問し歌や手遊びの披露をしてお年寄りに喜んでもらっています。</p>
<p><b>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</b></p>  <p>(1)将来の利用者が関心のある事項についてわかりやすく情報を提供しているか。 (2)利用希望者の問い合わせや見学に対応しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営法人のホームページには、園の概要、理念・方針、サービス内容等の情報を掲載しています。法人内全園対象のブログもあり、保育の様子や子どもたちの様子もわかりやすい画面で提供しています。また、港北区子ども家庭支援課のホームページや横浜市のホームページ「ヨコハマはびねすぽっと」、港北区内の子育て支援団体「びーのびーの」の「幼稚園・保育園ガイド」等に、園の情報を提供しています。</li> <li>・将来の利用希望者からの問い合わせには、園のパンフレットに基づいて説明しています。見学希望者が大変多い為、保育への影響を考慮し、1日に15組限定で見学日の設定をしています。当日は園長が、保育内容の説明や施設説明を丁寧に行っています。通常は合同の対応をしていますが、障がいやアレルギー等、配慮の必要な子どもについては、個別に対応しています。</li> </ul>
<p><b>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</b></p>  <p>(1)ボランティアの受け入れや育成を積極的に行っているか。 (2)実習生の受け入れを適切に行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習生・ボランティア受け入れに関するマニュアルは運営法人で定めた「実習生・ボランティア受け入れにあたってのベネッセ規定」があり、活動前のオリエンテーションでは、「職業体験のきまりごと」を配付し、利用者への配慮事項等を説明しています。</li> <li>・ボランティアはこの規定に基づいて判断した人選で受け入れています。中学生・高校生の職業体験や、小学生の一日ボランティア体験等を受け入れています。</li> <li>・実習生の実習プログラムは学校の希望を聞いた上で、乳児から幼児までの全クラスの体験や早番・遅番の体験なども考慮して作成しています。</li> <li>・実習生の日誌の内容確認や一日の振り返りをクラス担任が行い、最終日には、園長・クラス担任との意見交換の時間を設け、感想等を聞き取っています。</li> </ul>

## 評価領域V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>V-1 職員の人材育成</b></p>  <p>(1)保育所の理念や方針に適合した人材を育成するための取り組みを行っているか。 (2)職員・非常勤職員の研修体制が確立しているか。 (3)非常勤職員等にも日常の指導を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所運営に十分な人材構成であるかを、園長、運営法人で協議し、必要な人材の補充を行っています。</li> <li>・運営法人の人材育成計画に基づき非常勤職員を含む全職員の個別の職員育成研修計画を作成しています。また、人事制度の一つとして等級制を採用していて、等級要件を明示したチェックシートを用い自分で確認できるようになっています。</li> <li>・職員は、チャレンジシート（個人目標シート）を用いて目標設定し、中間期と年度末に自己評価しています。園長面談を年3回実施し、目標設定と達成度の評価を行っています。</li> <li>・職員個々の目標や経験、受講歴、希望等を考慮し、園長が個別の研修</li> </ul>

<p>いるか。</p>	<p>計画を作成しています。外部研修の通知をホワイトボードに掲示し、職員に情報提供しています。毎月、年間のテーマを決めて園内研修を実施しています。職員は、横浜市や港北区、横浜市総合リハビリテーションセンター、白峰学園保育センターなどの外部研修に積極的に参加しています。また、運営法人の研修にも該当する職員が参加しています。外部研修に参加した職員は研修報告書を作成するとともに、園内研修で報告しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・非常勤職員を含む全職員に対して「ベネッセの保育の考え方」を配付しています。マニュアル「安全衛生基準」は各保育室に置かれていて、いつでも確認することが出来ます。</li> <li>・非常勤職員に対しても職員育成研修計画を作成していて、倫理規定や個人情報保護、救命救急法等の研修には非常勤職員の出席を義務付けています。また、非常勤職員が希望すれば、園内研修や外部研修に参加することが出来ます。非常勤職員から常勤職員に登用する制度があり、非常勤職員のモチベーションにつながっています。</li> </ul>
<p><b>V-2 職員の技術の向上</b></p>  <p>(1)職員のスキルの段階にあわせて計画的に技術の向上に取り組んでいるか。  (2)保育士等が保育や業務の計画及び記録を通してみずからの実践を評価し、改善に努める仕組みがあるか。  (3)保育士等の自己評価を踏まえ、保育所としての自己評価を行っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は、職員はチャレンジシートを用い、園の運営計画に沿った目標を設定し、中間期と年度末に振り返っています。年度末には、職員が園独自の様式を用いて自己評価し、それをもとに園としての自己評価をしています。</li> <li>・横浜市総合リハビリテーションセンター、北部地域療育センター、運営法人の外部顧問である発達心理の専門家などの巡回で、指導やアドバイスを受けています。また、運営法人の系列園との交換見学会があり、他園からの見学者の感想から気づきを得ています。</li> <li>・年間指導計画、月案、日誌などには自己評価の欄があり、定型化されています。自己評価は、計画で意図したねらいと関連付けて行われています。職員は、結果ではなく、子どもの育ちや意欲、プロセスを大切に日頃から保育にあたっていて、自己評価もその視点に沿って行われています。自己評価の結果は次期の計画に反映しています。</li> <li>・年度末には、園独自の様式を用い、年間目標の達成度、クラス運営、子どもの気持ち、スタッフ間のコミュニケーション、保護者とのコミュニケーション、来年度への課題の項目ごとに職員一人一人が自己評価をし、クラスミーティングで話し合い、クラスとしての自己評価をしています。年度末の職員会議では、クラスごとに発表をし、園としての1年間の振り返りを行っています。また、年1回保護者に対して満足度アンケート（顧客満足度調査）を実施し、結果を分析しています。</li> <li>・振り返りの結果と保護者の満足度アンケートの結果を「前年度の振り返り」としてまとめて文書化し、運営委員会で報告しています。運営委員会の議事録は保護者が見ることが出来るよう、事務室のカウンターに置かれています。</li> </ul>



### V-3 職員のモチベーションの維持




(1)本人の適性・経験・能力に応じた役割を与え、やりがいや満足度を高めているか。

- ・人事制度の中に等級制があり、等級別に職務遂行能力、求められる保育の専門性などが明記されています。具体的な要件を記したチェックリストがあり、職員が自分で求められる役割や期待水準を確認することが出来ます。
- ・職員一人一人の役割を明文化し、役割や係など、現場の職員に可能な限り権限を委譲しています。クラスの運営はクラスリーダーに任されています。
- ・運営法人による職員満足度調査（ES 調査）を行っています。職員会議で、職員の改善に向けた意見を聞いています。園長、主任は日々の職員との会話の中からも意見、要望を把握しています。また、年3回の園長面談でも、職員の満足度や要望を把握しています。

## 評価領域VI 経営管理

評価分類	評価の理由（コメント）
<p><b>VI-1 経営における社会的責任</b></p>  <p>(1)事業者として守るべき、法・規範・倫理等を周知し実行しているか。</p> <p>(2)サービスの質を維持しつつゴミ減量化・リサイクル・省エネルギーの促進、緑化の推進など環境に配慮しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就業規則の服務心得や行動基準、個人情報ハンドブックなどに職員が守るべき法・基準・倫理などが明記されています。全職員に配付している「ベネッセスタイルケア行動宣言」にも明記されています。入職時の運営法人研修で周知するとともに、毎年、全職員で読み合わせを行い、園長が研修しています。</li> <li>・保護者代表が参加する運営委員会で事業報告をしていますが、経営、運営状況などの情報を積極的に公開することはしていません。</li> <li>・牛乳パックなどの廃材を用いて手作りおもちゃを作ったり、製作の素材として用いたりしています。こまめに電気を消すなど省エネに努めています。緑化の推進に向けた取り組みとしては、朝顔やゴーヤのグリーンカーテンを作ったり、虫よけとして蚊蓮草を園庭に植えるなどしています。</li> <li>・ペットボトルのキャップを集めて福祉につなげるエコキャップ運動を実施していて、園内にポスターを掲示し、園の考え方を保護者に伝え、協力を呼び掛けています。</li> </ul>
<p><b>VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等</b></p>  <p>(1)保育所の理念や基本方針等について職員に周知されているか。</p> <p>(2)重要な意思決定にあたり、関係職員・保護者等から情報・意見を集めたり説明しているか。</p> <p>(3)主任クラスの職員がスーパーバイザーとしての役割を果たしているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・玄関に保育理念、保育方針、保育目標を掲げています。「ベネッセの保育の考え方」に明記し、非常勤職員を含む全職員に配付しています。また、入園のしおりや保育課程にも掲載しています。入職時には、運営法人研修で理念・基本方針を周知しています。また、年度始めの全職員参加の園内研修で、「ベネッセの保育の考え方」の読み合わせをし、園長が具体的な事例をあげて分かりやすく説明しています。昨年度の園内研修のテーマとして理念、方針を取り上げ、1年間かけて「ベネッセの保育の考え方」の読み直しをし、職員間で方向性の統一を図りました。</li> <li>・行事の変更などについて園長は運営委員会や懇談会で保護者に説明し、意見交換しています。定員の増加、多目的室の改装、大学の研究の協力などの重要な決定事項に関しては、園長は職員会議で職員に目的や経過を説明し、意見交換しています。保護者に対しては、お便りや懇</li> </ul>



	<p>談会で説明しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一昨年の保育課程の見直しでは、異なる職種の職員でプロジェクトチームを作成するなど、異なる部門の職員で検討し組織を上げて課題に取り組む仕組みがあります。</li> <li>・等級制度の中に、主任クラスの職員に求められる資質や視点が明記されていて、計画的に育成する仕組みがあります。運営法人の主任勉強会があり、事例検討や有識者による研修などを通し、主任に必要な力量を高められるようになっていきます。</li> <li>・主任は毎日、各クラスをラウンドするとともに、毎月クラスミーティングに出席し、個々の職員の業務状況を把握し、指導や助言を行っています。また、シフトの調整を担当し、職員とコミュニケーションを取る中で個々の職員の状況を把握し、適切な配置がされているか確認しています。</li> </ul>
<p>VI-3 効率的な運営</p>  <p>(1)外部環境の変化等に対応し、理念や基本方針を実現するための取り組みを行っているか。</p> <p>(2)保育所運営に関して、中長期的な計画や目標を策定しているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園長は横浜市や港北区の各種会議や研修に参加し、事業運営に影響がある情報を収集・分析しています。また、運営法人の園長定例会に出席し、情報を得ています。重要な情報は主任、各クラスリーダーが出席する月数回の連絡会で報告し、重点課題として設定し、検討しています。重点課題の検討結果を、職員会議で報告し、園全体の取り組みとしています。</li> <li>・運営法人の中長期計画に基づき、3か年の園運営計画を作成しています。運営法人は次代の組織運営に備え、新たな仕組みを常に検討しています。</li> <li>・運営法人の外部顧問には様々な部門の専門家がいて、運営に関する意見や情報を得ています。また、系列の教育研究所からも情報や意見を得ています。大学キャンパスという立地の関係から大学関係者を運営委員として迎え、情報や意見を得ています。</li> </ul>

## 利用者（園児）家族アンケート 分析

- 1、実施期間 2016年10月17日～10月28日
- 2、実施方法 ①保育園から全園児の保護者に直接配付（手渡し）し、回答を依頼。  
②各保護者より、同封の返送用封筒で、評価機関あてに無記名で返送。
- 3、回収率 72.3%（65枚配付、47枚回収）
- 4、所属クラス 0歳児クラス…6人、1歳児クラス…10人、2歳児クラス…10人、3歳児クラス…8人、4歳児クラス…7人、5歳児クラス…6人

※ 同一家族で複数名が園に在籍している場合は、下の子どものクラスについて回答。

※ 文中の「満足」「満足度」は、「満足」・「どちらかといえば満足」の回答を合計した数値、「不満」は、「不満」・「どちらかといえば不満」の回答を合計した数値です。

- ・園の保育目標・保育方針を「よく知っている」「まあ知っている」と答えた保護者の割合は合わせて97.9%で、その保育目標・保育方針に「賛同できる」と答えた保護者の割合が71.7%、「まあ賛同できる」が28.3%、合わせて100%で全ての保護者の指示を得ています。
- ・項目の中で、満足度の割合が比較的高かった項目は「クラスの活動や遊びについて」「子どもが戸外活動を十分にしているか」「自然に触れたり地域に関わるなどの園外活動について」「お子さんが園生活を楽しんでいるか」の100%、「おもちゃや教材について」「遊びを通じた健康づくりへの取り組みについて」「給食の献立内容について」「基本的生活習慣の自立に向けての取り組みについて」「落ち着いて過ごせる雰囲気になっているか」の97.9%、「一日の過ごし方についての説明」「遊びを通じた友だちや保育者との関わりが十分に持っているか」「保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応」「施設設備について」「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」「話しやすい雰囲気、態度であるか」の95.7%です。
- ・「見学の受け入れについて」の満足度が74.5%と比較的低いですが、「その他」「無回答」が合わせて21.2%あり、自由意見欄にも「見学していない」という声が複数あります。
- ・一方、不満度の割合が比較的高かったのは、「年間の保育や行事に保護者の要望が活かされているか」の19.1%です。全項目の中で不満度が15%を超えているのはこの項目のみです。
- ・総合満足度は「満足」が78.7%、「どちらかといえば満足」が19.1%、合わせて97.8%と極めて高くなっています。
- ・自由記述欄には、多数の意見が寄せられていて、保護者の園への関心の高さをうかがうことができます。「楽しく登園しています」「安心して預けられます」など感謝の声が多数ある一方、行事の日程を始めとして様々な意見が寄せられています。

### ◆まとめ

- ・園の保育目標・保育方針の認知度、支持率ともに極めて高くなっていて、様々な働きかけにより保護者に園の考え方が浸透していることが分かります。
- ・問2「遊び」の設問では、全項目が95%以上の高い満足度となっていて、楽しく過ごしている子どもの様子を見て保護者が安心し、信頼をよせていることが、総合満足度の高さにつながっていることが読みとれます。

## 利用者（園児）家族アンケート集計結果

実施期間：2016年10月17日～10月28日

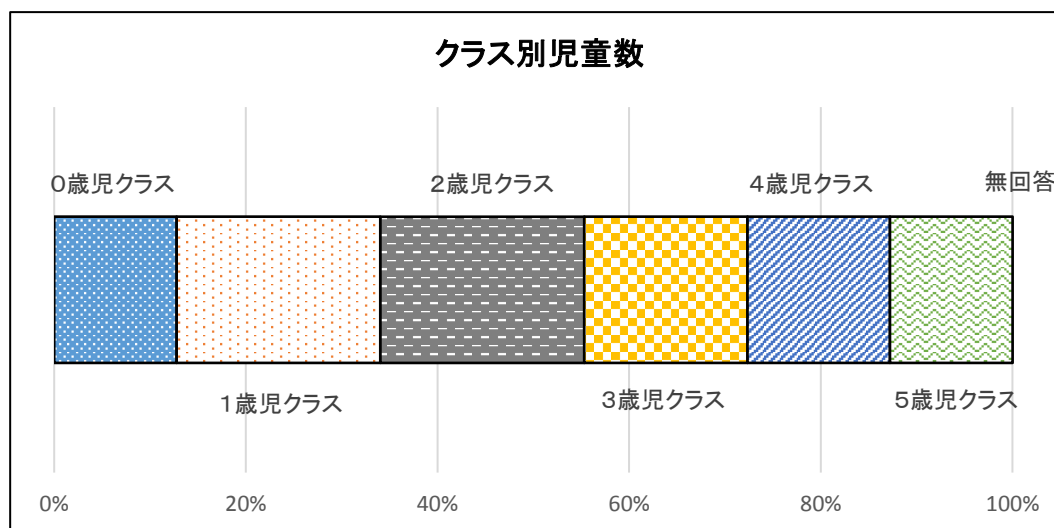
回収率：72.3%（回収47枚／配付65枚）

### 【属性】

クラス別児童数 (人)

合計	0歳児クラス	1歳児クラス	2歳児クラス	3歳児クラス	4歳児クラス	5歳児クラス	無回答
47	6	10	10	8	7	6	0

※同一家族で複数名が園に在籍の場合は、下の子どものクラスで記入

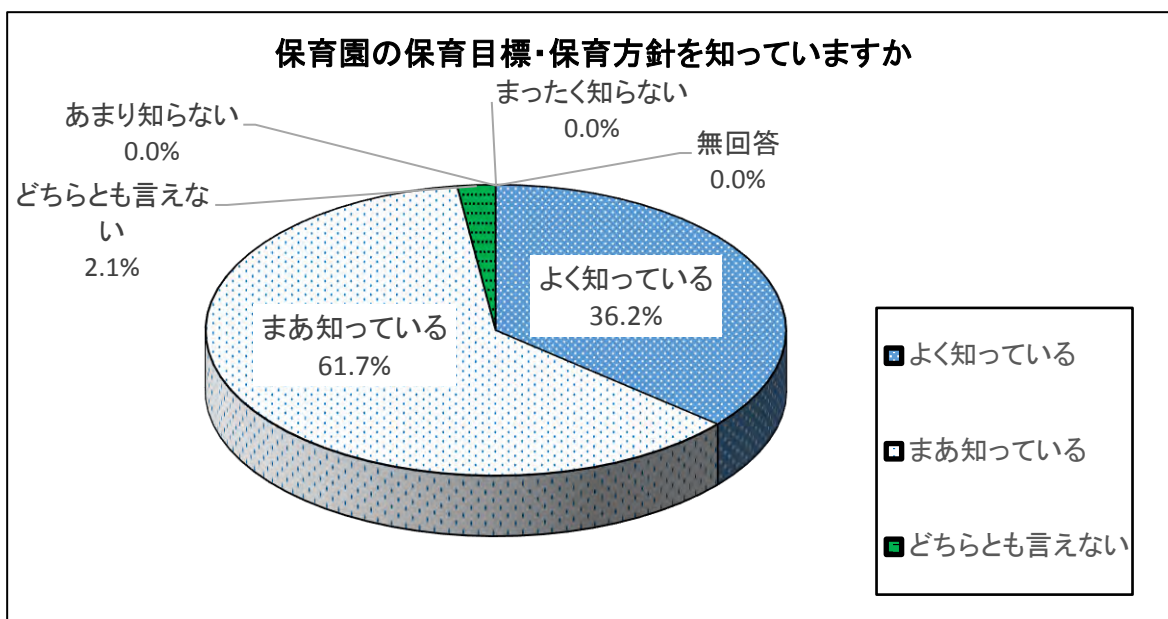


## ■ 保育園の基本理念や基本方針について

問1 保育園の保育目標・保育方針を知っていますか。

問1:	よく知っている	まあ知っている	どちらとも言えない	あまり知らない	まったく知らない	無回答	計
あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか	36.2%	61.7%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

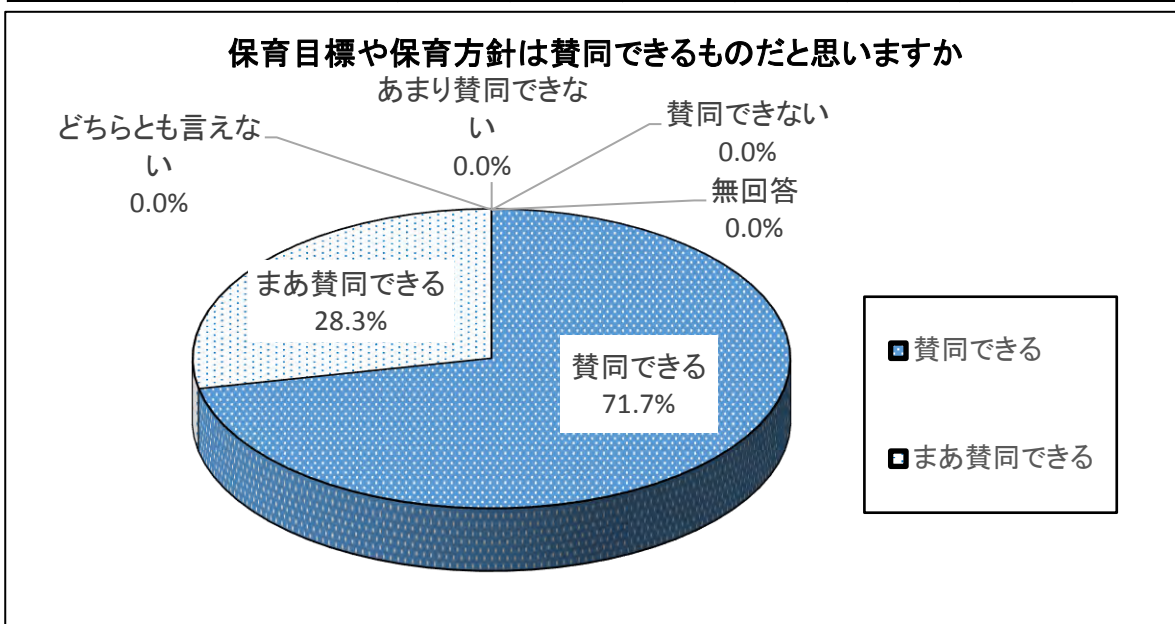
(%は小数第1位まで表示し、合計の小数第1位を四捨五入すると100%になります。)



「よく知っている」「まあ知っている」と答えた方への付問

付問1 その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。

付問1:	賛同できる	まあ賛同できる	どちらとも言えない	あまり賛同できない	賛同できない	無回答	計
あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか	71.7%	28.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%



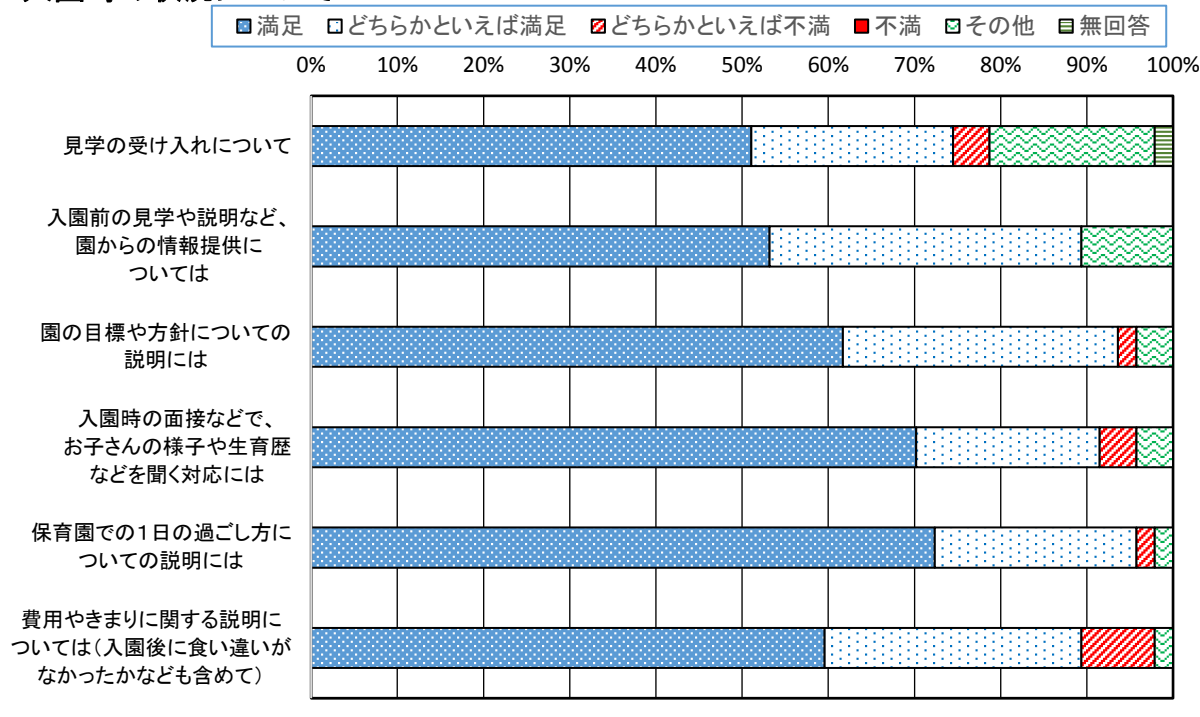


■ 保育園のサービス内容について

問2 お子さんが入園する時の状況についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
見学の受け入れについて	51.1%	23.4%	4.3%	0.0%	19.1%	2.1%	100.0%
入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	53.2%	36.2%	0.0%	0.0%	10.6%	0.0%	100.0%
園の目標や方針についての説明には	61.7%	31.9%	2.1%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%
入園時の面接などで、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応には	70.2%	21.3%	4.3%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%
保育園での1日の過ごし方についての説明には	72.3%	23.4%	2.1%	0.0%	2.1%	0.0%	100.0%
費用やきまりに関する説明については(入園後に食い違いがなかったかなども含めて)	59.6%	29.8%	8.5%	0.0%	2.1%	0.0%	100.0%

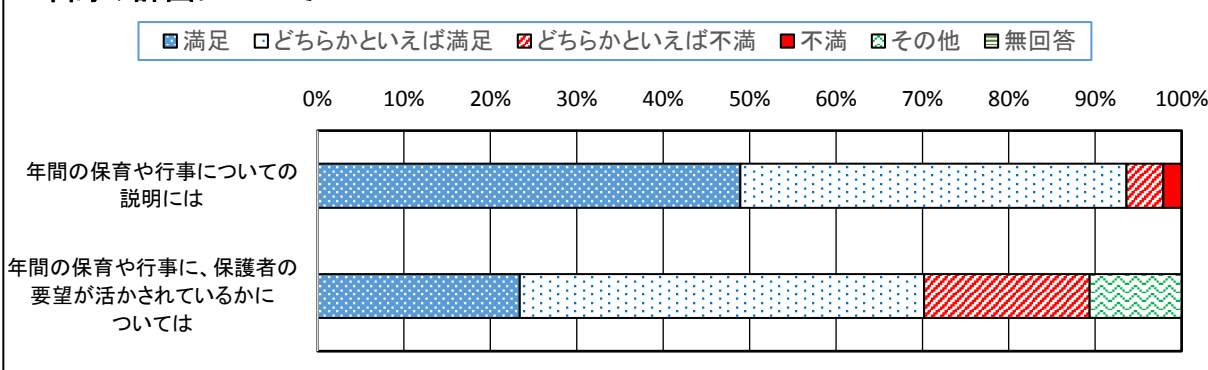
入園時の状況について



問3 保育園に関する年間の計画についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
年間の保育や行事についての説明には	48.9%	44.7%	4.3%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%
年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	23.4%	46.8%	19.1%	0.0%	10.6%	0.0%	100.0%

年間の計画について

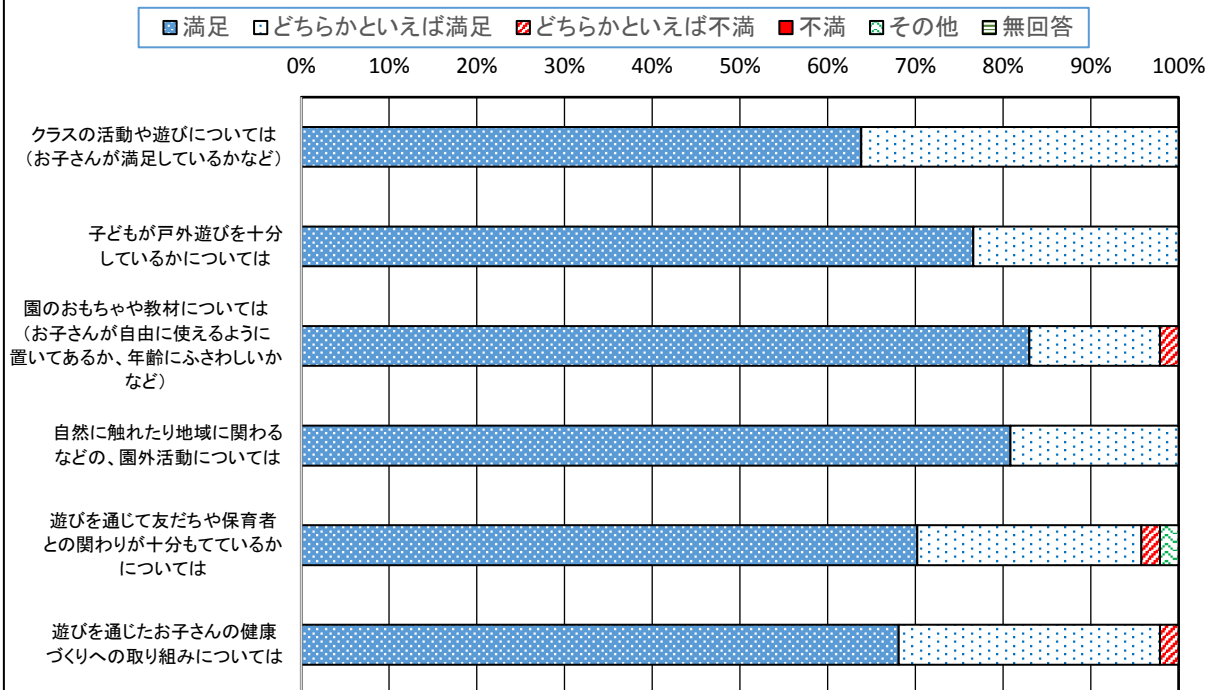


問4 日常の保育内容についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

●「遊び」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
クラスの活動や遊びについては(お子さんが満足しているかなど)	63.8%	36.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
子どもが戸外遊びを十分しているかについては	76.6%	23.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に使えるように置いてあるか、年齢にふさわしいかなど)	83.0%	14.9%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
自然に触れたり地域に関わるなどの、園外活動については	80.9%	19.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
遊びを通じて友だちや保育者との関わりが十分もてているかについては	70.2%	25.5%	2.1%	0.0%	2.1%	0.0%	100.0%
遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みについては	68.1%	29.8%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

日常の保育内容「遊び」について



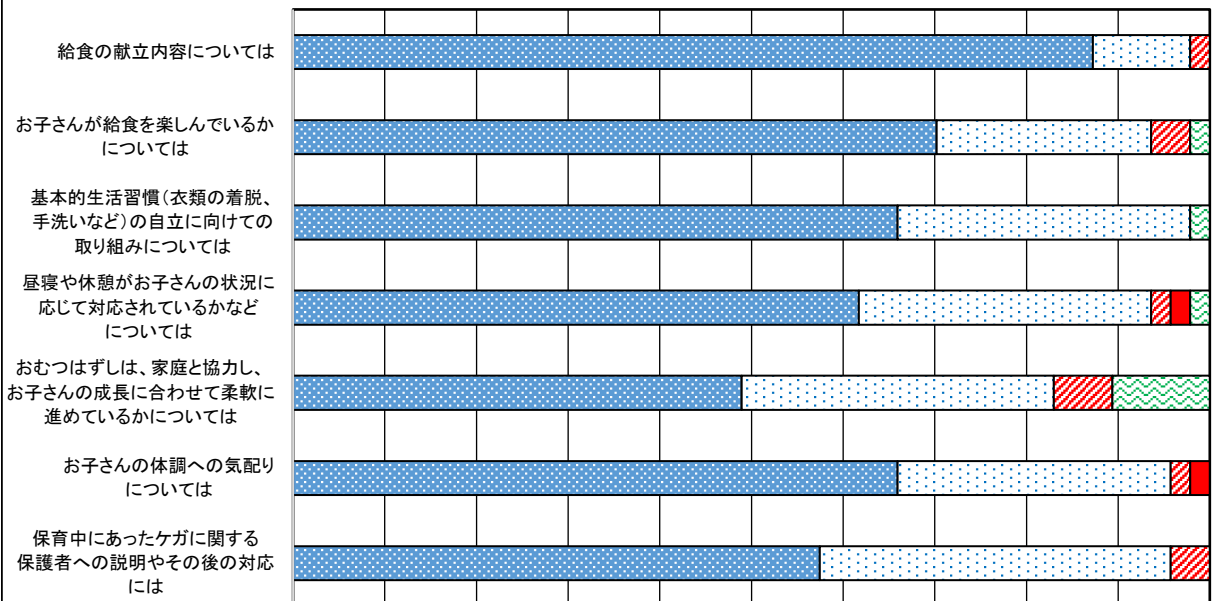
## ●「生活」について

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
給食の献立内容については	87.2%	10.6%	2.1%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんが給食を楽しんでいるかについては	70.2%	23.4%	4.3%	0.0%	2.1%	0.0%	100.0%
基本的な生活習慣(衣類の着脱、手洗いなど)の自立に向けての取り組みについては	66.0%	31.9%	0.0%	0.0%	2.1%	0.0%	100.0%
昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについては	61.7%	31.9%	2.1%	2.1%	2.1%	0.0%	100.0%
おむつはずしは、家庭と協力し、お子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについては	48.9%	34.0%	6.4%	0.0%	10.6%	0.0%	100.0%
お子さんの体調への気配りについては	66.0%	29.8%	2.1%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%
保育中にあったケガに関する保護者への説明やその後の対応には	57.4%	38.3%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

## 日常の保育内容「生活」について

■ 満足 □ どちらかといえば満足 ■ どちらかといえば不満 ■ 不満 □ その他 □ 無回答

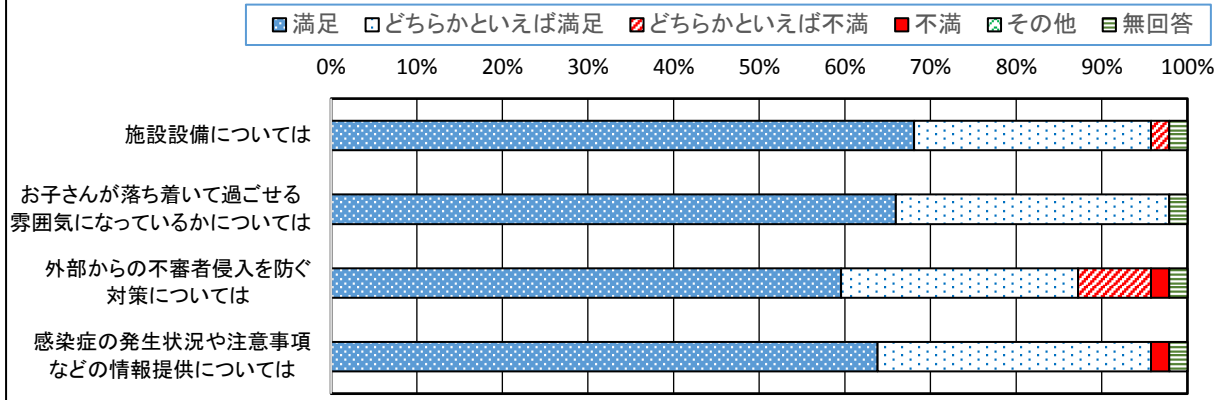
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%



問5 保育園の快適さや安全対策などについてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
施設設備については	68.1%	27.7%	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%	100.0%
お子さんが落ち着いて過ごせる雰囲気になっているかについては	66.0%	31.9%	0.0%	0.0%	0.0%	2.1%	100.0%
外部からの不審者侵入を防ぐ対策については	59.6%	27.7%	8.5%	2.1%	0.0%	2.1%	100.0%
感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	63.8%	31.9%	0.0%	2.1%	0.0%	2.1%	100.0%

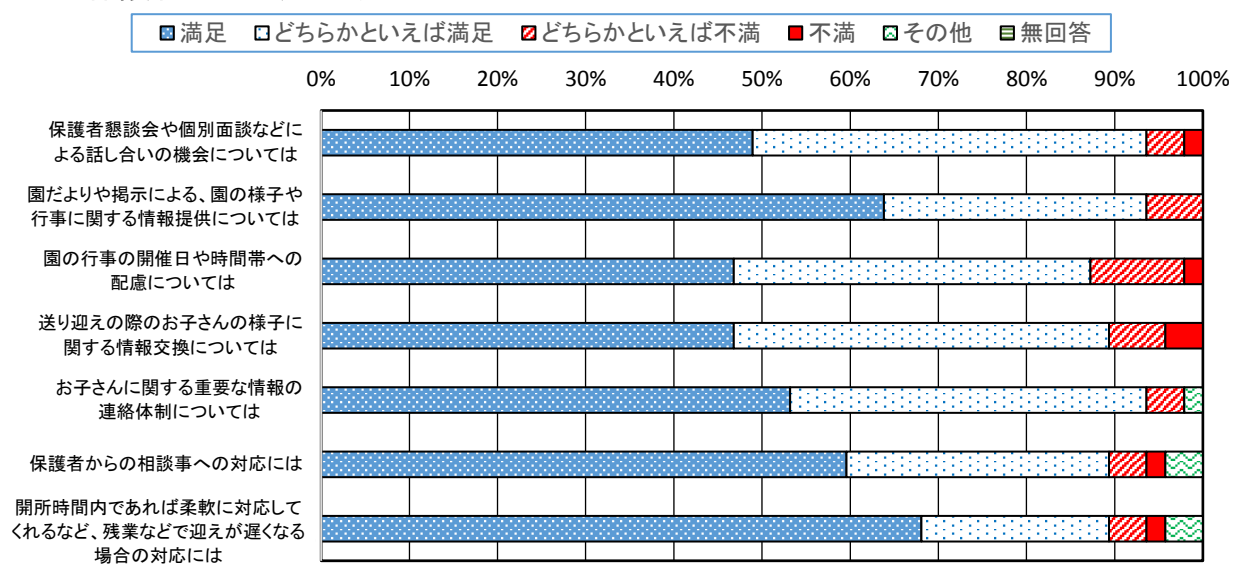
快適さや安全対策などについて



問6 園と保護者との連携・交流についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	48.9%	44.7%	4.3%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%
園だよりや掲示による、園の様子や行事に関する情報提供については	63.8%	29.8%	6.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
園の行事の開催日や時間帯への配慮については	46.8%	40.4%	10.6%	2.1%	0.0%	0.0%	100.0%
送り迎えの際のお子さんの様子に関する情報交換については	46.8%	42.6%	6.4%	4.3%	0.0%	0.0%	100.0%
お子さんに関する重要な情報の連絡体制については	53.2%	40.4%	4.3%	0.0%	2.1%	0.0%	100.0%
保護者からの相談事への対応には	59.6%	29.8%	4.3%	2.1%	4.3%	0.0%	100.0%
開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	68.1%	21.3%	4.3%	2.1%	4.3%	0.0%	100.0%

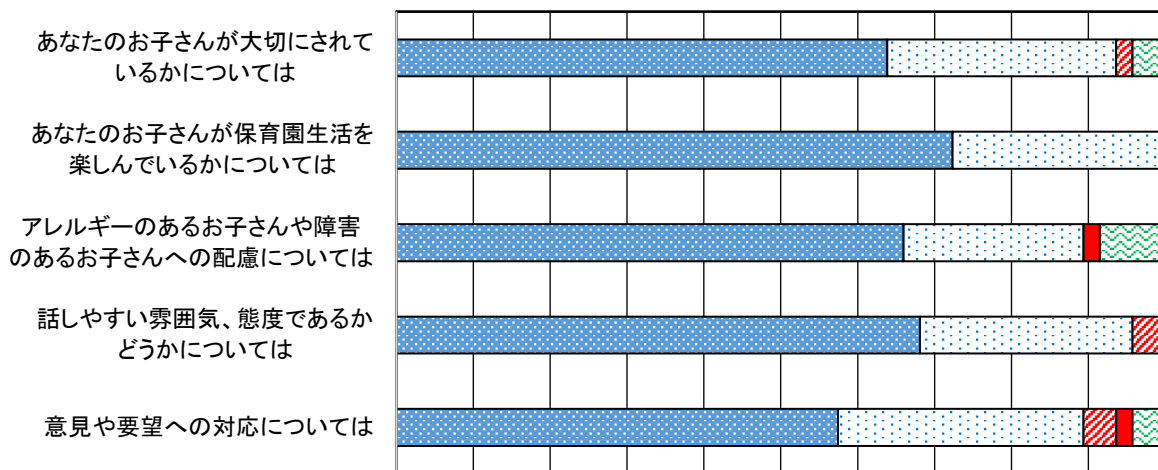
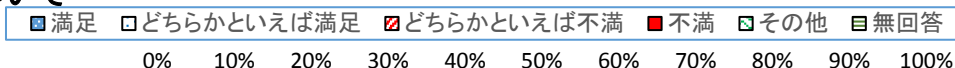
園と保護者との連携・交流について



問7 職員の対応についてうかがいます。それぞれの項目について満足度をお答えください。

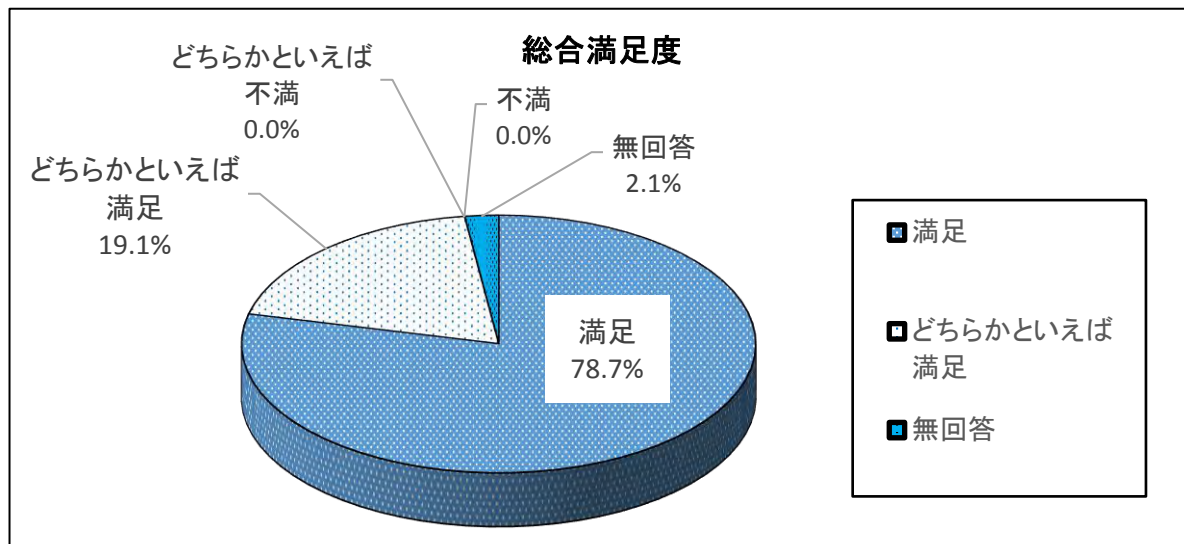
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	その他	無回答	計
あなたのお子さんが大切にされているかについては	63.8%	29.8%	2.1%	0.0%	4.3%	0.0%	100.0%
あなたのお子さんが保育園生活を楽しくしているかについては	72.3%	27.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	66.0%	23.4%	0.0%	2.1%	8.5%	0.0%	100.0%
話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	68.1%	27.7%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
意見や要望への対応については	57.4%	31.9%	4.3%	2.1%	4.3%	0.0%	100.0%

職員の対応について



問8 保育園を総合的に評価すると、どの程度満足していますか。

	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満	無回答	計
総合満足度は	78.7%	19.1%	0.0%	0.0%	2.1%	100.0%



## 利用者（園児）本人調査 分析

◆観察調査 ①12月7日（水）9：10～12：30 ②12月9日（金）8：55～12：30

※ 観察中、幼児を中心に、会話の中で適宜聞き取りを行いました。

### ◆ マミー（0歳児クラス）

朝の散歩の行き先は、大学の構内にあるウッドデッキです。銀杏並木の葉が落ちて、道路は黄色の絨毯のようです。カートに乗る子どもたちに鮮やかな黄色の落ち葉が手渡されます。1枚を大事に握る子どもや、保育士の手の平いっぱい落ち葉を投げ上げる子どももいます。「はっば」と言葉が出た子どもに「上手に言えたね」と、保育士がみんなで喜んでくれています。ウッドデッキでは、大学生がホッケーをする下のグラウンドを眺めたり、園から持参したボールやフラフープで遊んだり、大喜びの子どもたちです。まだよちよち歩きのマミークラスですが十分に外遊びを楽しんでいます。

給食の時間、きちんと食卓について保育士が「いただきます」と、声をかけています。まだ言葉は十分ではないクラスですが、食事の挨拶は理解して、楽しみな給食が始まります。落ち着いた雰囲気の中で保育士に優しく話しかけてもらいながらの食事風景です。「これ食べてみる？」「じょうず！」「ブロッコリーはどう？」「おいしいね」保育士に手伝ってもらいながら、子どもたちは手づかみとスプーンで、もりもりと食べています。

トイレの前が服の脱ぎ着をするスペースで、ここでズボンまでは脱いで、トイレの中でおむつ替えをするようになっていきます。保育士に膝あたりまでズボンを下げたもらった子どもが「ぬげるかな？」と言われて、一生懸命頑張っています。少しずつ自分で出来ることが増えていきます。

### ◆ タドル（1歳児クラス）

朝の保育室内では、子どもたちが思い思いの遊びを楽しんでいます。人形を布団に寝かせてトントんと寝かせつける真似をしたり、人形に服を着せたり、傍らでは小さな布団に横になり自分で赤ちゃんの真似をする子どももいます。水槽の金魚を眺めている子どもと一緒に保育士が餌をあげています。

トイレトトレーニングのスタートでおむつ替えの時に便器に座ってみる練習をしています。便器で排泄が出来ても出来なくても、トイレが嫌にならないように保育士が寄り添い、話しかけながらのトイレタイムです。おむつをつけてもらい、ズボンは頑張って自分ではくことが出来る子どもたちです。

園庭遊びです。小さな花の種を探す子ども、ボールやフラフープで遊ぶ子ども、ままごとのおもちやでスープを作る子ども、おもちゃの乗り物に乗る子ども、保育士と追いかっこをする子どもたち、広さのある園庭のあちこちで遊びが続きます。

まだ言葉がたどたどしいクラスですが、子どもたちの表情と一つ二つの単語で、保育士は子どものして欲しいことに的確に対応しています。「バナナみる」という子どもにはバナナの絵本を広げ、「おもいも」という子どもには、お芋の手遊びで応じます。子どもたちは安心して保育士に甘えています。

### ◆ サーチャー（2歳児クラス）

園庭で外遊びをするために、身支度をしています。帽子をかぶり上着を着て外に出ます。上着を着ることもまだ簡単ではないクラスですが、時間がかかっても自分で出来るように保育士が応援の声かけをしています。「もう1回やってみよう」「もう少しでできそうだよ」「できたね！」毎日が挑戦の2歳児クラスです。園庭では三輪車に乗り嬉しそうに走り回る子どもたちがいます。フラフープと縄跳び紐で電車に見立てた電車ごっこも始まります。「誰か乗りませんか？」と言いながら園庭を走ると次々に友だちが集まります。三輪車グループと電車グループ、走るコースのもめ事やおもちの取り合いなども起こりますが保育士が2つの線路を引いてくれたり、友だちが「○○君、赤（三輪車）あ

いたよー」と、教えてくれたりして、解決です。葉っぱを集める子ども、サッカーボールやバドミントンで遊ぶ子ども、木登り、リレー、様々な遊びができる園庭です。

今日はクラスの誕生会があります。園長先生もお祝いに来てくれました。「今日は誰のお誕生日でしょう？」の質問に、「〇〇くん」と、声を揃えての返事です。園長先生からのインタビューとプレゼントです。「〇〇くん、何歳になったの?」「3歳」、手作りのリボン飾りを胸につけてもらっています。クラスのみんなから「ハッピーバースデー〇〇くん」と、歌のプレゼントももらいました。

#### ◆ キンダー（3・4・5歳児クラス）

異年齢合同のクラスです。黙々とジグソーパズルに取り組んでいる子ども、保育士とゲームをする子ども、板状の積み木で大作に挑戦しているグループもいます。積み木で大きなものを作っている時には、1週間は壊さずにそのままにして作り続けて良い約束です。その後は、写真に撮り名前を書いて保育室に飾ってもらっています。

サークルタイム（朝の会）で、丸く輪になって座った子どもたちに、保育士から問題提起があります。子どもたちが朝の会に各自で持ってくる椅子の内、1つの「白い椅子」が人気で、みんなが坐りたいこの椅子がもめ事を起こしています。見た目は変わらない椅子ですが、新しいので木の色が少しだけ白く見えます。保育士から「もめない為にどうしたらいい?」と聞かれ、意見が次々に出ます。「白い椅子をなくして茶色だけにする」「ペンキで塗ればいいんじゃない」「にじ組（キンダーの他クラス）さんに白いのをあげる」結論は出ませんが、みんなで何かを解決する意欲が育っているたくましいクラスです。

クリスマスが近づき、合奏の練習があります。ピアノ・木琴・シンバル・タンバリン・トライアングル・太鼓等々の楽器で「あわてんぼうのサンタクロース」の演奏です。一つの楽器の演奏も難しく、みんなの演奏を合わせることはとても大変そうです。時には、友だちの楽器の方が楽しそうに見えたり、自分の演奏が思うようにいかなかったりといったことも起こりましたが最後まで演奏することが出来ました。クリスマスを目指して、練習が続きます。

給食の時間です。お当番はエプロンにバンダナで身支度しテーブルを拭いていきます。子どもたちそれぞれが自分のすることを心得、当番以外の子どもたちもみんなで食事の準備を整えています。各テーブルの子どもがテーブルクロスをかけ、クロスを抑える金具をはめていきます。すると、当番が全てのテーブルに小さな花瓶に活けてある花を飾ります。当番はご飯を盛り付け、おかずと汁ものは保育士に手伝ってもらいます。おかずに苦手なものがある子どもは、保育士に伝えて減らしてもらう約束です。

食事が終わると、子どもたちでほうき・塵取り・雑巾を使って部屋の掃除をします。交代制の約束ですが、みんながやりたいお手伝いです。午睡用のコットを並べることも自分たちでできるクラスです。



## 事業者コメント

開園から8年目を迎えて初めて第三者評価の審議を受けるにあたり、職員全員で自己評価票の設問を一つずつ確認しました。設問の内容は保育園として、保育者として求められているもので、自分達が実践できているのかの振り返りとなりました。

実践を問われている項目に○印をつけていく中で、日々気をかけ、話し合い、実行していること、積み重ねたP.D.C.Aが確認され、「これで良いのだ」という自負と繋がったことは、自分たちの行動の裏付けとなり、職員の保育という仕事への自覚が高まったように思います。反面、地域子育て支援分野では力が足りていない自覚が生じ、今後の運営方針の見通しとも繋げることが出来ました。

保育の仕事は小さな出来事と丁寧に向き合うことを重ねていく大変な仕事で、ともすると毎日を必死に過ごしているだけで時間が過ぎていき余裕を失いがちです。

第三者評価を受け、評価委員の方とのお話やご指導いただくことで、全ての保育園が目標とすべき事項を把握することが出来ました。私達の保育の考え方や姿勢が特別なものではなく、保育とはこう考えようすべき事なのだという事を整理できた気持ちです。

また、保育園は子どもを中心に園と保護者の方と地域の方との協力と支え合いで成立していると考えています。一方通行ではなく、ただ求めるだけでなく、互いの思いを知ろうとすること、理解しようとする事。そういう意味でも第三者評価で保護者の方々のアンケート結果を受け、私達の学びに繋がりました。

一人ひとりの子どもの個性と人格を大切に保育している信念を保護者の方々の多くに支持されている手応えを感じられ、嬉しく思います。一方、相反する少数の方のご意見にも耳を傾けながら、園の方針を理解していただく努力もさらに必要なことと思います。

私達が積み重ねてきた、“子どもの土と光と水になりたい”このベネッセの保育のメッセージである思いを基に今後も努力していきたいと思えます。

ベネッセ日吉保育園  
園長 伊賀上 知子



～ 評価結果は、下記のウェブサイトからも見るができます ～

●市民セクターよこはまの第三者評価のページ

<http://www.shimin-sector.jp/hyouka/>

●横浜市(健康福祉局)の福祉サービス第三者評価のページ

<http://cgi.city.yokohama.lg.jp/kenkou/fukushi/>

●かながわ福祉サービス第三者評価推進機構のページ

<http://www.knsyk.jp/search/3hyouka/index.html>



特定非営利活動法人

市民セクターよこはま

かながわ福祉サービス第三者評価認証機関 第4号

横浜市福祉サービス第三者評価指定機関 第4号

〒231-0011 横浜市中区太田町4-49 NGS横濱馬車道802号室

TEL : 045-222-6501 FAX : 045-222-6502 <http://www.shimin-sector.jp>

---